

出雲の神魂神社で行われているつままぎ神事



婚礼衣装の氏子夫婦

延暦十七年、出雲国造に対して、神事にことよせて多くの女子を娶ることを禁止する太政官符がだされた。妻向神事を曲解したのであろう。宗像神主もこれに倣えとあるから、一地域だけの特異な神事ではなかったことがわかる。

稲佐の浜は、大和の神が出雲に国譲りをせまった場所である。それは国造家にとって重要な聖地であったことを語っている。この浜に漂着する祖神は、鶴鶴の羽でつくった衣をまとっていた。正倉院蔵の屏風に画かれた樹下美人とお揃いの服を着ていたことになる。その場所へ、七夕を前にした神幸が行われたわけである。

文学部教授

HEADLINE

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------------------|--------|
| 8 面 | 7 面 | 4・5 面 | 3 面 |
| 関大フォーラム | インフォメーション・サ
ービスを全学展開 | 特集「私家版 海外旅行
ガイド」 | 夏休みを前に |

七夕のつままぎ神事

上井 久義

神話の国とされている出雲には、伝統的な祭りが多い。それは古代から連綿と続く国造家が、出雲大社の司祭を継承しているからである。ここで最も重要とされてきた神事の一つに八月十四日夜の神幸祭がある。ところがこの祭りについては現在も明解な説明がされていない。

十日から祢宜は斎館にこもって物忌の生活にはいり、十四日夜に身逃神事、十五日に爪割神事がある。明治四年以前には、陰暦七月四日から五日にかけての行事であった。この期間、社家に伝わる火燗でつくった火で調理した食事をとり、他の火を使わない別火をまもり、女性と言葉を交わすことも禁じられていた。

身逃神事には、狩衣を着た祢宜が、青竹の杖、真菰の苞と火縄筒を持ち、足半草履をはいて大社の西にひろがる稲佐の浜の塩搦島へ行く。途中で人に出会ふと、神幸のやり直しをしたというから、町中が物忌をするなかで、浄めの潔斎が行われたわけである。次いで祢宜は大社へもどり、神饌を供えて祭りは終わる。

国造家の居館は、かつては松江市の大庭にあった。したがって、火縄神事や新嘗会には、その都度、大庭の神魂神社に立ち戻り、古伝の神事を伝えてきた。このことから、大社と大庭での祭礼は、相互に一連の内容を伝えたものと見る事ができる。

天正十三年の神魂神社年中行事によると、七月七日に別火役が御供を調進し、これを「妻向之神事」とよんでいる。居館が大社の地に移ってからは、潔斎のあと一日をかけて大庭にもどり、七夕の日に妻向神事を行っていた。これにかかわる行事として、正月二日には御ひめ神事、四日に弓神事が行われた。

現在、神魂神社では、氏子のうちから当番をえらび、一月四日にこの夫婦が婚礼の衣装で鳥居の前に座し、なれ鮎を神前に運ぶのを見送る神事がある。本殿内には御子の誕生を祝う乳母と、そこに集う二百四人分の膳が並べられる。次いで神官が足半草履をはいて破魔弓を射る。

村人は次の当番がきまると家に帰り、精進小屋に接した座敷で、男と女で三日にわたって綱引きをした。男の力が強くとも、一日目は女、次は男、三日目は女が勝つことになっている。そして男を精進小屋に引きこんで精進あけとなる。つままぎと御子誕生の姿を演じているのである。

延暦十七年、出雲国造に対して、神事にことよせて多くの女子を娶ることを禁止する太政官符がだされた。妻向神事を曲解したのであろう。宗像神主もこれに倣えとあるから、一地域だけの特異な神事ではなかったことがわかる。

稲佐の浜は、大和の神が出雲に国譲りをせまった場所である。それは国造家にとって重要な聖地であったことを語っている。この浜に漂着する祖神は、鶴鶴の羽でつくった衣をまとっていた。正倉院蔵の屏風に画かれた樹下美人とお揃いの服を着ていたことになる。その場所へ、七夕を前にした神幸が行われたわけである。

文学部教授

千里眼

平成七年に入って、阪神大震災、オウム事件など、日本を震撼させる大事件が次々と起こった。大震災は五十年、百年に一度起こるか起こらないかの天災であって、いまの科学技術では全く予測し得ないものである。今度の阪神大震災では、如何に防災に強い都市を作り、また、災害が起こった後、如何に迅速に救援、復興するか等、我々に数多くの大きな課題が残された。しかし、オウム事件は、先進国家の共通の病とはいえず、教団設立以来、数々の法秩序の侵害、社会的倫理や道徳に相反する布教活動を行いつつ、我々の社会がそれに目をつぶって何の手も打たずに放置してきた事実を思うと、痛恨の念を禁じ得ないのである。たとえ今回のオウム事件が決着したとしても、現在の我が国には第二、第三のオウムを生む土壌が無くなった訳ではなく、再発しない保証はどこにもない。現在、文部省を中心として事件の再発防止のために宗教法人法改正の検討作業に入っているという。▼事件を起こした主要メンバーを見ると、高学歴者の多さに驚かされる。大学人として、現在の大学教育には何か欠けていないかを深く反省して、事件の再発防止に役立つように何らかの行動を起こしていかなければならない。(Y・O)

二か月もおもひ長い夏。みは、大学生の仲間である。この夏休を通して、高校生活に毛の生えた程度だった。年次生は、やうと大生らしいになる。逆に、夏休をフルに活用できなかった学生にとっては、学生生活の意義は減ってしまったほどである。

ところが、近年は海外へ出かける機会がふえていて、そこで今回は、学内のひと、留學生の方々に、普通ガイドブックには見られない、ユニークなガイドをお読みした。これを読んで、夏休み海外旅行を充実させるための海外旅行の準備を、前期試験の準備の前に、お読みまで。(高橋)

ガンガー近くの旧市街（ベナレス）

(文学部教授)

人、ローマを永遠の都といふ。はるばる訪ねた北方人にはじめてみる文明発祥の地に、感懐あつての名を奉つたのか、ローマの子が口から出せんに *città eterna* といつたのか、私は、その由来を知らない。

ローマの治安は、決してよくない。地下鉄や64号のバス（ヴァチカン行き）などは、スリがウヨウヨ、夜の終着駅周辺などは、イタリヤ人でも若い女性は近寄らないほどである。最近、警官を装つてパスポートをみせろ」といふの

栗田 和彦

ジェンツァーノの花祭
アンデルセンの「即興詩人」
の「花祭」の章に出てくる

ジンバブエ共和国の首都
ハラレ探訪

北川
勝彦

南部アフリカの内陸国で、独立して十五年のジンバブエ共和国がある。日本からは、ケニアのナイロビを経由して入ることができるが、モリリシヤスから南アのジョハネスバーク経由で入ることもできる。



「コピイの丘」からハラレの
中心部をながめる

歴史と美食の国

へ
ル
キ
ー

それは壮麗なグラン・フランス（天
広場）だ。首都の象徴として
知られている小便小僧（マ
ネケン・ピス）は、さすがに
近くある。ゴシック様式の建
物が残る街並を見てると、
まるで中世の時代にいるよう
な気がする。通りに埋め込ま
れているのも、昔から食
い道楽の町と言われるブリュ
ッセルの特徴だ。（肉通リ）
「パン通り」野菜「通リ」通
り等の名がずも残っている。
フランド、ボテトとワッフル
の匂いが漂う。
週末には、市民たちはここ

歴史と美食の国

ベルギー

サビネ・クラース

ルギーはベルルのメッカだと
言われている。ベルギーに行
つたら、ブリックという赤
いビルがおすすめ。そして、
ベルギーのチョコレートが大
変おいしいということは、世
界中に知られているだろう。
ここに貿易港の町アントワ
ワ、次には、九世紀に築か
れた要塞ステーン城を訪れて
みよう。町の中心部へ出て

鑑賞するのかもしれないと思っ
絵のように美しいブリル、ジ
ュの道をさるぶら歩くと、中
央市場や宮様の石垣、それに
ギルド街が、その破乱に富ん
でいる歴史を物語っている。
馬車でブリルージュを回るの
が忘れられない楽しい経験だ
に違いない。
最後に、さながらカナパエ
で夜を過ごすのがベルギー旅
行に欠かせないことだ。
ベルギーを楽しんだら下さ
い。カトリック、ルーバン
大学交換留学生

緑豊

緑豊かな国

ジュエル・ターゲット

桜井 美政

人といふから、その過疎ぶりを、こゝからニューシラン島の最高峰、Mt. Cook へも飛び、最近七千七百年、現在五千八百頭以上の羊がいたといふから、地球温暖化の奇号は人間のふたの人口で議論ではきない。

南島は、大自然が大切に残されてゐる。Mt. Ford Sound、Mt. Cook、Lake Taupo、湖とその水面が一七ハートルドの海面まで、の落差を利用した地中発電所などがあり、Te Anau から

る。報



Milford Sound

この二、三のシーランドは、鉄道が分たゞ、交通手段は何かバスでなければならぬから、このバスも幹線通車二日一回と、いろいろなものもあり、十分情報を集めて準備する必要がある。宿泊設備、便利の設備が各所あるが Motel で食書類、料理用具など、各所所有の品を、一箇所に集めて完備して、近所の店で、その料を買つてれば、自分の好む料理が出る。

北島を南から見て行くと、富士山とそっくりな Mt. Tananaki、少し離れた Mt. Raupahu の国立公園、その北は魚釣の出立の多い、大湖、その南は、ちの多岐な Rotomahana の人々がある。彼はポリネシア系である。このニュージーランドの先民である。このての温泉地、り、木彫りの製作の妙なり、の見学もあつた。

牧畜が盛んとはいへ、大なる自然のなで育つてきた、朴で儀正しい人達が多い。日本人の若者が、この旅を期待して、

工学部教授

マレーシア、
私の国

リム・タクウェイ

マレーシアは、東南アジアの国では最も経済発展のはやい国である。確かに私の母国であるマレーシアのことばかり

んなあまり知らないが、マレーシアの海や景色は目の中にも最も綺麗で、観光に一番よい国である。多民族が混じってあり、みなはいずれ仲良く暮らしている。また、物価は平均して日本の三分の一と安く、氣候はたいした二十六〜三十一度の間くらいで年中あまり変わらない。

いってイトウカシシを含んだ赤い油がたつぷり浮いていて、香辛料の強い匂いがする。コナツツルカが育っているものなら、甘い香りでまよわしてゐる。それでいて、メソの上には厚板あなごのつていたりする。ラクサはまさに中国とマレーが合併して生まれたものである。もしマレーシアへ行つてラクサを食べなかつたら、とても残念だと思つて、是非チャンスがあつたら食べてみてほしい。

ついでに、ババ州には府公認種、カシシ、ゲンイン・ババ州がある。ババ語で「雲の上高麗」という名の高麗リゾートである。それは本当に素晴らしい所である。いろいろな遊ぶ設備があり、もちろんカジノの魅力也是非常にいしかし、マレーシア人々が遊びに行つても、マレー系は宗教のためにカジノに入れないのである。

(第1部 経済学部 三年次生

台灣遊記

陳チエン
蕙イー
雲ウエ

い。とはいえ、経済や文化、スポーツなどの民間交流は、想像以上に盛である。

台湾は小さな島国だけれども、中華文化のたけらこ、観光地もある、しかも、興味ある方は、非一度香港の江の混雑は避けた方がいい（第1期学生会部2年次生）

陳意雯

政治問題が集まっている。その上、故宮博物院と世界四大博物館の一つであり、見る値打ちがあるの、中華文化の宝庫である。是非一度香港の江の混雑は避けた方がいい（第1期学生会部2年次生）

美しくて、安撫に送る。

台北の北の九份という所は、昔炭鉱街であり、そこ建物は、昔のまゝ保存されている。類いし都市に臨みに近い。方法は国際交流センターの揭示板を利用してほしい。

オーストラリア

束し
み方

諸木 穀
ていて大変おもしろかった
わいわい騒ぎながら飲んだ
ールは最高だった。是非ま
行きたい。
に進んで行くと、水中ライ
にロブスターの眼が赤く映し
出されたりする。
(第1部商学部・四年次生)



ロブスターを両手に
ごきげんの筆者
(オーストラリア西岸)

旅情報

荒木 孝治



(商学部助教授)

かながら表裏している。
 は紙の情報媒体であ
 あたりから日本でも
 ターネット」といっ
 新聞・雑誌・TV等
 はじめ、今日ではフ
 うた感がある。これ
 にちらほら様々なコ
 タネットワークを結ぶ
 ワークを意味する。
 ターネットを利用して

西オーストラリアの南端に
 エス・ペラランスという町があ
 る。インド洋に面しており、
 ずっといくと南極につきた
 る。ここは、ロフスター流
 の多くは日本へ輸出される
 のだ。私は毎年一年間休学
 し、ワーキングホリデー制度
 を利用してオーストラリアに
 滞在した。スキャーバダイ
 ングが好きな私にとって、こ
 狭い洞窟の底を這いつくば

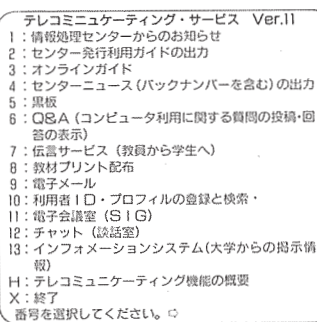
エス・ペラランスでは、四日間
 のボートトリップに参加し
 た。この海域は、表面はア
 ザールやイルカがひびくこ
 顔を出し穏やかな感じがする
 が、水面下はかなりスゴイ。
 とまで落ちているのか想像
 もつかないような切り立った
 断崖や、真っ暗な洞窟など、
 まさに秘境である。水温は低
 いが生物は豊富で、二メー
 ルもある魚が突然現れたり、
 おいしそうに食べるのを見

アロヒ、サザエなどは珍
 所であり、毎日の食事はは
 欠かかった。私は、しよ
 ゆとワサビ、それにナゴ
 持っていたので、皆に
 しみを作って食べた。最
 はためらう人もないが、私
 おいしそうに食べるのを見





これを使いこなせば君も情報の達人。
※ふくろうネットの利用申請が必要です。
詳しくは下段「ふくろうネットあれこれ」
欄を参照。



なお、このサービスは、在籍確認票に印刷されている情報処理センター利用者IDで利用できます。申請は必要ありません。

情報処理センター・各学舎のステーションに設置してある端末で大型コンピュータと接続

・サービスを
見ることがで
ている科目に
の呼出情報の
える情報処理
一発行の『イ
の手引』を参
確認票に印刷
用者 I D で利
せん。

イフオーム・ヨシシステムの最大の特徴は、学外からでも必要な情報にアクセスが可能となる。操作もいたって簡単。電話やパソコン・ワープロで本学の情報発信基地へ、後はコンピュータから送られる音声や文字のメッセージに添えていくだけで、自然に欲しい情報までたどりつくことができる。

二十四時間サービスなので夜中、早朝でも利用ＯＫ。

◇時間割・担任者・教室変更 ◇休講情報
◇臨時・平常試験／補講等 ◇行事案内
◇レポート提出の通知 ◇お知らせ
◇ゼミからの諸連絡 ◇学生呼び出

来たる年(二月二十一日)から、
第1部法政学部・文学部・社会学部・工学部を対象としたインフォメーションシステムのサービスを開始されます。
これにより、すでにサービスを行ってゐる第1部経済学部・商学部・総合情報学部および第2部法学部と合わせ、全ての学部生諸君が、このシステムを利用できるようになります。
そこで今回は、一人でも多くの皆さんに、このシステムを学園生活のよりよい生活に活用していただくよう、使い方のア・ラ・カルトを頒じます。
(情報処理センター)

全学サービス開始

第2学舎1号館

えてくれます。

※ 詳しい使い方は、各学部事務室に置いてあるパンフレットを参照してください。

**インフォメーション
ターミナル**
すべての掲示情報を自由
に取り出せます。
音声メッセージに従い順
次画面をタッチすれば、見

たい情報に自然に到達できます。また、学生証を磁気カードリーダーに通せばあなたへの呼出情報が即座に表示されます。

法学部では、新しい特殊講義として「ロイヤリング」という名称の科目が設けられた。今年度は、損害賠償法を統一テーマとして、大阪弁護士会に所属する四人の中堅弁護士に担当していただいた。「ロイヤリング」ということは、あまの聞きなれないことではある。ロイヤル（弁護士・法律実務家の扱う仕事）というより意味で使われる。この新設科目では、複数のロイヤルが統一テーマで関連する論点リレー方式で講義していく方がとられた。この名称は、ロイヤルの輪ひたである。ロイヤル（ロイヤリング）といイマジネーションなのでなかろうか。

法学部は、紛争解決のため、その技術にむく学問領域である。古くから実務と密接に関係している。もちろん、憲法、民法、刑法などの法的伝統的科目においても、常に実務背景として研究がすすめられ、講義さへはその一歩ずつめて、実務の側から法律士の機能を考てみようという趣旨で新設されたものである。

同法律専門家でも、大学の研究を拠点として論文中心の研究活動を行なう大学教授と、社会の現場で事務処理にあたり裁判、検事、弁護士などは、種々の点で違がみられる。議論の前提となる価値観

や社会観、問題のとらえ方や思考の組み立て方などにはかなりの違いがある。今回新設の科目は、このような状況をふまえて、研究者と実務家のところを、学会や研究会の場にとどまらず、キャンパスの中

ロイヤル

ある。しかし、損害賠償法という名前の独立した法律があるわけではなく、損害賠償責任は、不法行為や契約違反などを原因として生じ、民法だけでなく、他の法律分野にまで及ぶ。また、この損害賠償法の企画は、その損害賠償法の企画は、学問体系の側からではなく、四つの現代のトピックを起点として解きほぐすところなのである。最初の個別テーマは「P」である。

（製造物責任と損害賠償）
担当の児玉麗子弁護士は、テレ出火事件と多くの製品責任訴訟を公表してこれらに関する論稿を公表してこれら。今回は、本年七月一日に施行された製造物責任法について

永田眞二郎

「P」のリング

ある。しかし、損害賠償法という名前の独立した法律があるわけではなく、損害賠償責任は、不法行為や契約違反などを原因として生じ、民法だけでなく、他の法律分野にまで及ぶ。また、この損害賠償法の企画は、その損害賠償法の企画は、学問体系の側からではなく、四つの現代のトピックを起点として解きほぐすところなのである。最初の個別テーマは「P」である。

（製造物責任と損害賠償）
担当の児玉麗子弁護士は、テレ出火事件と多くの製品責任訴訟を公表してこれらに関する論稿を公表してこれら。今回は、本年七月一日に施行された製造物責任法について

永田眞二郎

「P」のリング

いて、その役割や問題点を講義された。

二番目のテーマは「バライシと損害賠償」。担当の木村哲也弁護士は、マスコミの木村バライシグループのリーダートして、多くの論議を公表しておられる。今回は、バライシ侵害の実態的分析を基礎に、その法的な問題点を講義された。

三番目のテーマは「知的財産権と損害賠償」。担当の小松陽一郎弁護士は、特許権や商標権などの知的財産権の問題に古くから取り組み、多くの著書・論文を公表されている。今回は、プログラムの盗用や偽ブランドなどを素材に、知的財産権の法的な能力を講義された。

四番目のテーマは「企業法務と損害賠償」。担当の飯村佳夫弁護士は、契約法を中心とする企業法務の専門家として、継続的契約関係について多少の定評がある。論文を発表 yourself する。今回は、企業法務に関わる損害賠償の問題を法的基礎理論と関連づけてながら講義された。

受講生は、七十七人の新設科目は、「学問的な新しいセプトからはなく、事件の処理プロセスに沿って法の役割や問題点を、とてもエキサイティングな九〇分です。」などの感想が寄せられました。

（法学部教授

池田 敏雄

近年、地方分権に関する議論が活発化しており、各種領土に関わる問題として、地方自治を推進し、住民による地方自治を確立するために、中央政府に与えられている地域生活（密着した）の分野の権限を地方自治体へ譲渡する（である）」とする議論で、地域

【「地方分権の課題と展望」をテーマに
講義する山本圭男奈良市長（6月24日）】

典型的な考え方は「地方の自主性・個性や個性豊かなまちづくりを実現するためには、地方分権を推進する必要がある」と。避けられぬ課題である。

おわりから五十五日には、地方分権推進法が制定された地域のもとも、地方分権議論は極めて喫緊な問題として、講師の諸君には時宜を得たところと受け取られたようである。

学外講師には、地方自治行政の各分科にあつては実務有立場で活かされてゐる。識者の皆んんに出向を願ひ、地方分権の必要性、取組みの現状、具体的問題点を、将来展望等について二回つりレ形式で講じて頂いた。

開講時暇が講師諸氏の都合もあり、土曜日の午後に組まれていたが、聴講者も百人以上をこえる。講者が聴講、そのつとに配されたジュエや資料に耳を通し、学外講師の講義に耳傾ける姿が見られた。学外講師の皆んんからは、受講者が熱心に聴いてく

略。

- ①峰岸郁夫 豊中市市助役
- ②地方分権市自治体
- ③小西慎一 大阪府総務部
- ④地方分権制度論
- ⑤田中英機 豊中市政策推進部長
- ⑥次長兼まちづくり支援部長
- ⑦地方分権まちづくり
- ⑧村山和一 茨木市教育長
- ⑨地方分権教育
- ⑩安藤修公 守口市福祉部長
- ⑪地方分権社会福祉
- ⑫山本芳雄 茨木市長
- ⑬地方分権の課題と展望
- ⑭法学部教授

加藤 隆

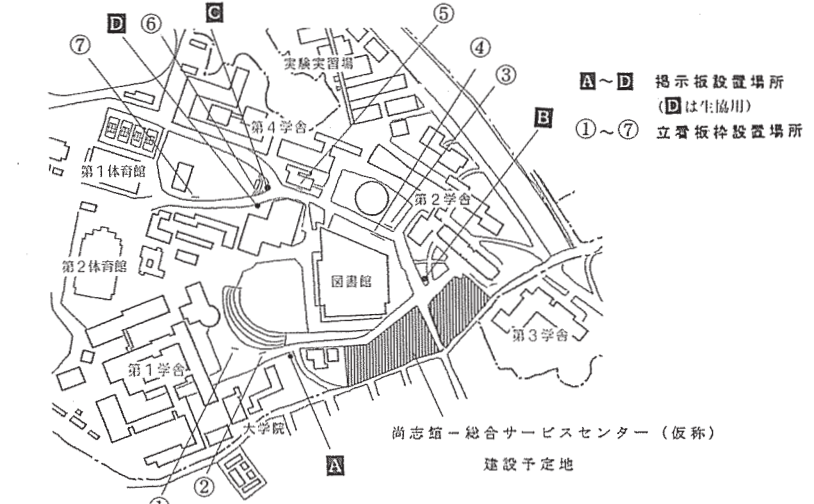
人間とコンピュータ 二つの情報処理システム

人間コンピュータが互いに情報を取りあう「対話」の場、のようなものと考えてよいかと思います。今のところ、人間の意図はキーボードやマウスを通してコンピュータに伝われますし、コンピュータの処理結果はディスプレイに表示されて人間に伝えられます。これは、人間同士の直接対話に比べて、情報面で極めて限定された不便なものとするのは、人間に適切な情報処理にはよく理解した上で、各メディアの要素技術を統一的に活用して、いかに必要かを。その意味で、ヒューマンインタフェースの設計はますます複雑かつ重要になると思います。人間の顔の認識に興味をお持ちだそうなので、

関西文化科学研究所都市にあるATR人間情報通信研究所で、はいいと思います。一研究者であるための心構えを、

コンピュータ合成された、優しそう(左上)/柿そう(右上)/明そう(左下)/暗そう(右下)なタイプの平均顔。
(写真提供:ATR人間情報通信研究所)

揭示板・立看板枠設置予定場所配置図



掲示板および立て看板フレームの設置について

前号「第二三六」で既
お知らせしたように、千里山
バス・アクセス整備工事並
に高志館・総合サービスセン
ター（仮称）建築工事に伴い、
門付近にある従来の掲出板は
月下旬までに撤去します。
別冊のように、大卒からの
報伝達が、後期より全卒の
「従来掲示板」から「キャ
パシビリティ・ケース・シス
テム」に変更されることな
ります。

したがって、課外活動用掲
板も、新しい時代や環境にマ
チしたものととして、学生諸君
の動線等の勘案し、上記箇面の
七、三が所に「掲示板」と七
所に「立て看板用フレーム」
を設置することにしました。
でお知らせ致します。

なお、学生生活上、必要な
協力を提供している関西学生
協同組合の掲示板も、新たに
設置することになりました。

情報化時代に適合した
キャンペーン情報サービスを
目指して

情報処理センター所長

将来、情報・ハイウェイが
 備われ、ハイウェイを利用
 した遠隔教育が実施されるよ
 になる」と、インフォメーシ
 ンシステムは、ますます必
 かつ重要なものとなる。し
 ち、それは学内にとどまら
 ず、大学が要求される。この
 うなことを視野に入れて、
 後のシステム開発に取り組
 れなければならない。

工学部教授

切れてしまつので、注意し
ください。

○大阪06地域以外から
でも低電話料金で使える
全国約百七十か所にアク
スポイント（受け付け電話
号）が用意されています。
最寄のアクセスポイント
接続すれば、大阪06地域
外からでも、低電話料金で
えます。

関大フォーラム

私は専門科目とともに一般教育科目の論理学や倫理学なども担当してきたのですが、狭い縄張り根性や守旧派と考えて「改革」に反対しているわけではありません。これまでの一般教育科目のありのままの再検討あるいは反省はもと

その充実・改善をめざすことではないでしょうか。大学教育はただ専門教育をやればよいのではなく、充実した一般教育の土台の上にこそ高い専門性は花開くのではないのでしょうか。

一昔前に大学人は「専門バ

ちろん必要です。語学や体育ではかなりの改善が進行中です。それ以外の一般教育科目ではまだこれからの面が多いと思いますが、マンネリを排して改革すべきは当然です。しかし重要なことは、一般教育の解体・縮小ではなく、力」であってはならないと盛んに言われた時期がありました。大学卒業者が狭い専門知識しか持っていないのでは困ります。専門知識が生きたものになるのは深い人間理解に基づいた場合のみです。世間の人々、そして学生諸君の中

門以外の学部で雰囲気や少しでも経験することができない。逆に、私が想像する理想的な一般教育制度は、専門教育の各学部の入門科目を柱とすべきである。たとえば、経済学部の学生にとって経済学

一般教育制度が関西大学の得意分野に集中し、充実されることもあると考える。

もう一つの大きな問題は一般教育科目の中で必須科目が多すぎることである。ここでとくに目立つのは、外国語の

エリック・ラムステッター

合されていないことである。

重要な点として一般教育制度の大切な役割は、専門以外の学部と学問を紹介することである。しかし、現在の制度は専門以外の学問を紹介することに成功しているとして、一般教育科目を通じて専門は必須科目になるはずだが、同時に他の学部的一般教育科目にもなることが望ましいと思う。このようにすると学生が本と講義を通じて、学問を知るだけではなく、その学問に伴う学部の特徴気もある程度経験できる。なお、一

必須科目における教員と学生の大量の時間のむだである。授業の回数がいへん少なくて（教育上週三回以上は必要）、また授業の学生数が多すぎるので（教育上十五〜二十人以上は無理）、一般教育の外国語科目が学生の上達にほとん

大きく分けて、基礎外国語教育の充実化、あるいは合理化を強調する解決方法がある。一方、必要な教員と教室の確保がたいへん難しいために、充実化がたいへん困難であろう。他方、教育上の現状維持が一番簡単な方法であるが、この場合、むだを減らすために基礎外国語教育科目を選択科目にする必要がある。

いすれにせよ、関西大学の意思決定組織が思い切った戦略をなかなか打ち出せないのので、上に述べた難問の解決を得ることがたいへん困難であろう。(経済学部助教授)

次号は10月6日発行の予定です

明治二十四年（一八九一）五月、訪日中のロシア皇太

団の快挙を高く評価。そこに現代にも通じる教訓を読み取るうとしてゐる。瑞々しい色彩を放つ問題作。児島を准校祖と仰ぐ全関大人に一読を奨めたい。

(蘭田香融)

名誉教授 谷沢永一著

（PHP研究所・一五〇〇円）

現今の混乱する政治の世界を、そのリーダーの著述をも

とに政策論を批評、バツサリ

と斬り捨てゐる。それも、五十年体制の崩壊とそれに続く自民・社会・新党さきがけの連立政権時代というホツトな政局の鳥瞰である。

智雄、小沢一郎、細川護熙、橋本龍太郎、武村正義、羽田孜ら首相・幹事長などを経験した現代日本のバリバリのリーダーたちであり、採り上げられる問題は、日米貿易摩擦

いつの時代にもその本を読
んでいなければ議論の仲間
に加われないといった種類
の本がいくつもある。一九
九三年のノーベル経済学
賞を受賞したノースのこ
の本は、そのよ

工場・事業所など特定汚染

ダグラス・C・ノース著
経済学部助教授 竹下公規訳
『制度・制度変化・
経済成果』
(晃洋書房・二五〇〇円)

工学部教授 和田安彦著
『ノンポイント
負荷の制御』
(技報堂出版・三八二円)

示されている。ノンポイント汚染問題とその対策は今後の都市環境における中心的課題となるだけに、本書の発刊は注目に値する。

(西田一彦)

思いが鮮やかに印象づけられる。それも、理念や観念でなく、等身大の生活者の「智恵」として納得させられるのである。

(仲井 徳)

の行動)の相互関連を説明する。しかも、最大の関心は、制度変化という極めて複雑な歴史過程に向けられている。他分野との対話を誘発するような本だ。

質と量の問題が相互にからみあう、一層複雑なものになっている。

本書は都市域におけるこのような問題がわかりやすく解説され今後の方向が具体的に

読後に、政治、経済、社会生活の全般にわたる公正な評価、提言の形で著者の真摯な

が必要になる。

著者はこのような人間の相互作用の不確実性にもなう取引費用の問題から、制度（国家や所有権や規範のようなゲームのルール）の生成および制度と組織（プレイヤー）

大したことに、一気降雨が河川に流出し、水害が頻発するという「量」の問題も発生している。ノンポイント汚染源からの汚濁負荷は雨水の流下に伴って流出するものであるため、都市の水環境は

策論に対して、「著者の政治的節操を守らんとする意識の強さを物語るものとして、敬服しなければいけない」と評価しているのは、目からウロコ賞ものであろう。

交換相手の行動や提供される財についての情報が不十分ならば、交換当事者は交換相手の裏切りや怠行を絶えず自分でチェックしなければならず、財の品質を測定する費用や契約を監視し執行する費用

「質」の問題と同時に、道路舗装面などの不透透面が拡

安全保障、土地問題、医療福祉・教育、規制緩和、地方分権、小選挙区制など日本の進路を舵取るために緊要の課題ばかりである。

うな性格の本であり、一新制度派経済学」のエッセンスを凝縮する本だ。

経済学はこれまで、交換や取引にかかる費用を本格的に問題にしたことはなかった。

源からの排水に対する規制や下水道整備が行われているにもかかわらず、都市河川等の汚濁負荷は減少していない。これは道路や屋根に堆積している粉塵など、面的に散在し



「邦久」教授 専攻は日本史学。とりわけ民俗学に詳しく、関大民俗学会を指導してきた。関大大学院同級の輝代夫人との共著『日本民俗の源流』ほか著書・論文も多い。



續集後記

また、回を重ねている「関大フォーラム」は、今、大学での焦点となっている「一般教育」を取り上げて、論を闘わせてもらいました。今後の幸りある議論の一助となればと思います。

（長谷川記）